

事業モデル まだ過渡期

2割は教員が社長

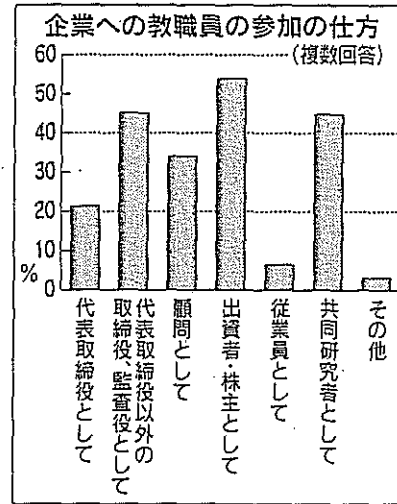
教職員が社長に就く。二〇〇〇年に大学の状況を尋ねたところ、二割超の企業で教員が代表取締役を務めているとの結果が出た。教授などが研究と経営両方を主導する。ただ、研究・教育と企業活動の利益相及や社内統治などの問題が起る。研究と事業に配分する時間をあらかじめ明確に決めておく必要がある。慶応大政策・メディア研究科の大川恵子助教を務める企業を地域別にみる。



慶応大学助教授を兼務するスクールオンリーターネット研究所の大川恵子社長（中央）

社内統治の問題はらむ

みると、地方大が四十分、東大が全体の過半数を占める。首都圏に比べ、経営者に適した人材を確保しにくい状況もある。ミリ波発生装置開発のエムメックス（仙台市）は、東北工業大環境情報工学科の米山務客員教授が社長を兼務する。「昨年設立した際、ほかに適切な人材が見つからなかった」（同社）。経営が軌道に乗れば速やかに交代する考えだ。教員が経営に介入する傾向が強いことは、様々な問題の火種となりかねない。例えば大阪大発で創業ベンチャーのアンジエスMGでは、開発を進める際の臨床試験を担当した阪大教授が上場前に同社の未公開株を取得し、自由になったが、兼業に一定の規律を求める大学も増えている。一人や二人で大学から離れた段階に入った。



ていた事実が発覚し、問題となった。今回の調査でも、現在の経営課題（複数回答）として「大学の利益相反の未然防止」と回答。うち四八%が兼業の形態・方式に、「四〇%が報酬の取り扱い」に留意している。国立大学の法人化で教

現在の社員数

順位	社名 (本社所在地)	現在の社員数 (人)	事業内容
1	NHN Japan (東京・渋谷)	266	オンラインゲームの運営
2	総合臨床薬理研究所	185	臨床試験支援
3	メディネット	134	免疫細胞治療に必要な技術や管理システムの提供
4	ジーエヌアイ (東京・港)	100	遺伝子制御ネットワークの解析や創薬
5	インデックスデジタル (大阪市)	80	顧客管理システム
6	アンジェスMG	76	遺伝子医薬品
7	ホソカワ粉体技術研究所 (大阪府枚方市)	63	ナノ粒子
8	バイオマトリックス研究所 (千葉県流山市)	60	DNAチップの受託合成、染色体の分析
9	トランスジェニック	57	遺伝子破壊マウスの開発やマウスデータの提供
10	サイバーレーザー (東京・江東)	56	産業・医療用レーザー装置の開発
10	インターアクション	56	デジタル家電向け光源装置
12	ジェネティックラボ (札幌市)	55	遺伝子解析や創薬支援事業など
13	加茂精工 (愛知県豊田市)	53	減速機
14	クラスターテクノロジー (大阪府東大阪市)	50	超微細部品向け金型など
15	オンコセラピー・サイエンス	48	がん治療薬
16	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (愛知県蒲郡市)	46	再生皮膚の培養など
17	ファーマフーズ (京都市)	45	機能性食品素材
18	ナノテック (埼玉県白岡町)	44	表面処理装置
19	オキシジェニクス (東京・港)	43	酸素治療薬
19	エフェクター細胞研究所	43	細胞の性質を調べる装置販売や医薬品研究
19	中農製作所 (大阪府東大阪市)	43	自動車用クラッチ部品製造

収益 実績徐々に

前年度の経常損益をランキングしたところ、収益化のモデルを確立した企業が目立った。大学の有望な技術がいかにか収益につなげるかが大学発ベンチャーにとって最大のテーマだが、実績が伴い始めた企業も着実に増えている。ランキング上位のフェイス・テクノロジ（東京・千代田）は慶応大発のソフト開発企業。〇五年三

転。製造業向け三次元CAD（コンピュータによる設計）の分野を強化し、ソフトをトヨタグループにも提供している。黒字化はこうした販売実績を積み上げた結果でもある。十七位の東京工業大発のアイフェイス（東京・大田）も、物質の熱伝導率を短時間で計測できるシステムの販売が軌道に乗ってきた。自動車、材

フェイス トヨタと連携、黒字化 熱伝導計測が軌道に

順位	社名 (本社所在地)	経常損益 (百万円)	事業内容
1	総合臨床薬理研究所	652	臨床試験支援
2	ラティス・テクノロジー (東京・千代田)	174	画像圧縮技術
2	iGENE (茨城県つくば市)	174	RNA干渉技術を使った医薬品
4	ナノテック (埼玉県白岡町)	143	表面処理装置
5	イー・アイ・ピー (東京・千代田)	125	オンライン調査
6	チャフローズコーポレーション (横浜市)	102	抗菌剤など
7	加茂精工 (愛知県豊田市)	90	減速機
8	DNAチップ研究所	86	DNAチップ
9	エフェクター細胞研究所	77	細胞の性質を調べる装置販売や医薬品研究
10	オンコセラピー・サイエンス	72	がん治療薬
11	クリプトン・フューチャー・メディア (札幌市)	50	音源販売
12	岩根研究所 (札幌市)	43	画像認識システム
13	エスアイテック (東京・港)	40	技術調査・人材派遣
14	マイクロ化学技研 (川崎市)	22	微小化学分析チップ
15	ファーマフーズ (京都市)	13	機能性食品素材
16	コンプレックス (東京・新宿)	12	ソフトウェア
17	アイフェイス (東京・大田)	11	物質熱解析装置
17	フラクタリスト (東京・渋谷)	11	携帯電話用ソフト
17	ティーアンドエフカンパニー (福岡県糸島市)	11	業務用システム
17	バイオファーム研究所 (東京都三鷹市)	11	機能性食品素材

〇七年中に発売予定の慢性動脈閉塞（へいそく）症治療薬が通期で寄与する〇八年十二月期には、黒字転換を見込んでいる。遺伝子解析機器開発のDNAチップ研究所など、創業よりも早く収益に結びつきやすい企業は上位に入った。ただ、同社はチップを使う解析受託事業に事業の軸足を移す過程にあり、〇五年三月期の単独経常利益は前月の期比一七%減。各社の事業モデルづくりはまだ過渡期の色合いもある。

事業拡大進み社員増

バイオ関連が 研究員増やす

社員数では、研究員を拡大する医療・バイオ関連、販売担当を増やす機械や情報通信などで増加が十一社と最も多い。遺

が自立した。五十人以上は十四社、うち四社は百人以上だった。ランキング上位の総合臨床薬理研究所やバイオマトリックス研究所（千葉）は、四年前より十人以上増員。必要に応じて社員を着実に増やし、企業としての形を整えている。

も起業家教育による創業も大学の支援に求められる。一、報告書作成、専念させる体制、資金調達に力を入れる。だが、成事業を推進する。だが、成事業を推進する。だが、成事業を推進する。

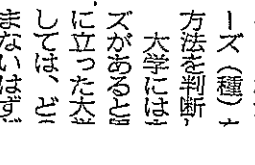
専門家の見方

バイオ分野を中心に大学発ベンチャーの成長モデルが定まった。調査結果でもベンチャーキャピタル（VC）の出資額が増加傾向にあり、有望な企業には資金が集まる状況になっている。株式公開する企業が増え、VCにとっては孵化（ふか）育成から資金回収までの道筋が見通しやすくなった。

ただ経営課題として「人材不足」が一位に挙げられるなど、数年の課題は残る。特に役員などは企業経営がわかる人材の不足というより、技術面のカギとなる研究者と深く意思疎通できる人が足りないという印象だ。

問われる大学としての戦略

VCも各社を橋渡ししている。今年も増え、大学発ベンチャーは五百社程度もある。大学の経営戦略が大学の経営を左右する。大学の経営方法を判断する。大学の経営方法を判断する。



久二・ジャフコ常務

事業拡大、人材確保が急務

久二・ジャフコ常務のコメント。事業拡大、人材確保が急務。久二・ジャフコ常務のコメント。事業拡大、人材確保が急務。